

これまでの議論を踏まえたテーマ例

視点等	テーマ例	キーワード	委員発言
住む	豊かな自然と共生したライフスタイルの実現 (強み×機会)	リニア通勤/ 移住/ 二地域居住	<ul style="list-style-type: none"> ・都心に近く、広い居住空間で豊かに暮らすことができる山梨の存在感を示すべき。 ・自然の豊かさを求めて通勤で山梨を選択する人はいる。 ・子どもの教育環境を徹底的に整備し、良質な人材を多く呼び込む施策も有効。 ・程よい距離の近さで、いざとなればすぐに行き来できる心理的距離の近さもアドバンテージ。 ・住むコストが安く、しかも不便さを感じない環境づくりを進めると良い。
	グローバル人材の多様なニーズに応える 居住滞在機能の充実 (強み×機会)	ダイバーシティ/ 多言語対応/ 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境と教育環境が優れていないと、人は絶対に移り住んでこない。 ・小・中学生の子どもを持っている層やグローバル人材のために必要な教育環境の整備が欠かせない。
	次世代エネルギーシステムを導入した スマートシティの構築 (強み×機会)	サステナブル/ 再生可能エネ ルギー/エネ ルギー地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨のレガシーとして水力発電があり、リニア駅近くには太陽光発電施設、水素貯蔵技術の研究拠点もある。 ・クリーンエネルギーなどの既存の資源や技術をうまく繋げて、新しいまちづくりに活かせる可能性あり。 ・富士山、八ヶ岳、農村の景観もあり、もっとクリーンなイメージを出していくべき。
	地域の魅力を活かしたテレワークの推進 (強み×機会)	サテライト/ ワーケーション /癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を含め、IoTの発達により会社へ行く必要がなくなり、より選択肢が持てるようになる。 ・若い人の中には、特定の地域に生涯住むという感覚はなく、地域に面白いプロジェクトが見つければそこに短期滞在するという人々も現れている。 ・新しい働き方や住み方に価値を感じている人や企業をターゲットに、品川まで25分という価値が加わることで、ワーキングブレイスとして山梨が評価される可能性あり。
	自動運転技術などを取り入れた次世代 交通システムの導入 (弱み×機会)	MaaS/ ライドシェア	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通のシームレスな移動手段を整備することによって、県全体の魅力が増し、より競争力が高まる。 ・中央線や高速道路との接続を生かし、その周辺住民との利益共有を含めて、県内の動線を上手く構築することが山梨への移住にも繋がる。 ・世間を引き寄せるには先行した話題づくりが必要であり、実験の場を求める企業側のニーズを踏まえ、リニア開業前に自動運転に関わる実証実験のパイロットケースとして山梨を使ってもらえるかどうか。

視点等	テーマ例	キーワード	委員発言
働く	クリエイティブな交流が生まれる拠点、 工科系大学や研究機関等の誘致 (強み×機会)	インキュベーション/ 医工連携	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術者を集積させるポイントは、「山梨で最も大きな課題をテクノロジーで解決すると財政的にも健全になっていく。」というような大きなアジェンダをつくること。 ・東京と名古屋の中間地点において、調査研究や実証実験の拠点として、安く土地が確保でき、自然豊かな環境の中で業務に従事しながら、何かあった時は本社へすぐ行ける環境があるということは、企業にとっても大きなメリット。 ・自動運転やドローンなどのエンジニアはイングリッシュスピーカーの外国人が多いが、仮に山梨に機会を見いだした場合、小学校での授業、サマーキャンプなどを実証研究と絡めて山梨で実施することになれば、IoTやドローンの技術もエンジニアから学び取れるし、英語も身につけることができるなど、教育にも良いトピックになる。
	ものづくり技術や地域特性を活かした テストベッドの提供 (強み×機会)	AI/ ビッグデータ/ ドローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス支援として金銭的援助も有り難いが、企業側からすると実験できる場を求めている。 ・土地が確保でき、環境も良いので自動運転やドローン、UGV（自動配送車）の実装の場が考えられる。 ・5Gが当たり前の環境を率先して整備するという、思い切ったことを他より先にやると効果が大きい。 ・制度面の障壁を取り除き、テストベッドを提供できるとなれば最終的に企業誘致に繋がる。 ・今、何も無い山梨だからこそ、一挙に先端技術の実証実験を始めるということができるのかもかもしれない。
	健康延伸ビジネスモデルの発信 (強み×機会)	ヘルスケア/ メディカル/ ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ・データ活用も山梨県だと動かしやすいという事であれば魅力になる。 ・海外のメディカル系の研究者が、高齢者が多いので日本人のコーホート研究を行いたいと言っているが、こういった研究を誘致してはどうか。
	水素社会をリードする燃料電池技術産業の 集積 (強み×機会)	パワートウガス/ FCV/ サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・全国有数の日射量を誇る山梨県は、既に再生可能エネルギーの利用拡大とエネルギー関連産業の発展のために電力貯蔵技術の実証研究に力を入れている。
	最先端技術を活かした地域産業の発展 (強み×機会)	ロボテック/ アグリテック	<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツ、ワイン醸造などをコアにししながら、地元企業やアカデミックと連携すると企業誘致できるかもしれない。
	アカデミアのシーズを生かした イノベーションの創発 (弱み×機会)	産学官連携/ オープンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミアからの良い研究を社会に対して出していくことが大事であるが、今のところ、山梨大学等の研究が社会にでる機会が少ない。 ・アカデミアからベンチャーが誕生するのか、大企業との共同研究なのか、出口に違いはあるが、アカデミアが強いという要素は企業誘致に繋がるかもしれない。
	グローバル人材の育成に向けた リベラルアーツ教育の充実 (弱み×脅威)	高等教育/ 知の拠点/ 大学間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく大学に機能を持たせる場合に、日本が圧倒的に欠けているのはリベラルアーツの領域。 ・東工大のリベラルアーツ研究教育院では、思想哲学教育を取り入れ、これからの未来社会に役立つ工学研究やSociety5.0の技術研究などを行う令和時代の人材を育てる取り組みを展開。 ・Society5.0の本質は、人間中心の社会設計をどのようにデザインしていくかということであり、新しく都市を創るにはアカデミアの役割を機能強化し、地域の産業構造を含めた活用策が一つの柱となる。
	地域課題に積極的に取り組む人材の育成 (弱み×脅威)	起業教育/ スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・何か社会課題が身の回りにある、或いは何かに挑戦するチャンスがある、実現したい理想の未来があるといった時に、自分たちに何ができるか考えて行動するような人材の育成が重要。 ・中学生ぐらいから起業教育に取り組むと費用対効果が非常に高い。 ・就職先として大企業ではなく、起業やベンチャー企業が選ばれている現状を踏まえると、自動運転、AI、アグリなどの分野で、若者のやりたい仕事ができる魅力的な労働環境を整えていくべき。 ・意欲ある人を支えるようなベンチャー、ファンド、スタートアップに対する強力な支援策が重要。 ・ベンチャー、スタートアップに金銭的支援を行い、山梨が良い場所と認識してもらえれば、芋づる式に小さな企業の連携に繋がるかもしれない。

視点等	テーマ例	キーワード	委員発言
交わる	国際会議やコンベンションなど知的交流の場となるMICE拠点の形成 (強み×機会)	国際会議場/ 展示場/ コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・中途半端に山梨目線のような施設を造っても、わざわざ県外や国外の人は使わない。 ・都心との至近性というのは重要なメリットであるが、MICEが成り立つにはホテル、旅館、飲食店、既存の観光資源との連携など、利用者の立場に立った施設や機能を提供する必要がある。 ・隣県同士でMICE施設を造ってもパイを奪い合うだけなので、マーケットを広く捉えて、競合しないように連携し、集客を図るという視点も必要。 ・国際学会に参加する海外の方々はファミリーで観光地や田舎に立ち寄るので、大都市のMICE施設との接続も含め、新たなMICE機能やコンセプトを考えることが大事。
	アクティビティを通じた交流の場の整備 (強み×機会)	山岳/サイクリング/温泉/自然体験	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス性が高まると、特に富士山へのインバウンド、ワイン好きなども増えるだろう。
	食と農を活かした都市農村交流の促進 (強み×機会)	滞在型市民農園/ 子ども体験学習/農村ワーキングホリデー	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨は自然が豊かでおいしいものがたくさんある、ブランドイメージがある。
	競合地と差別化された観光資源のブランディング (弱み×機会)	富士山/ワイン/ 郷土食	<ul style="list-style-type: none"> ・「四季が豊かな自然環境」など他県と同じような強みでもブランディングによって活かすことができる。 ・山梨を既に知っている人だけではなく、知らない人にも他県との違いが分かるPR活動をすべき。
	富裕層を取り込むハイクラスホテルの誘致 (弱み×機会)	ロケーション/ おもてなし/ 本物志向	

視点等	テーマ例	キーワード	委員発言
その他	いざという時に国民生活や経済活動等の継続に資するバックアップ機能の確保 (強み×脅威)	防災拠点/ BCP/ 首都直下型地震	<ul style="list-style-type: none"> ・東南海・南海トラフのことを考えると、甲府の地勢学的優位性も明らかになってくる。